

記録映画づくり支援 有志の会で事務局長

八森・奈良聡子さん



「1年半にわたった撮影も昨年暮れに終わり、映画は今、春の完成を目指して編集作業が急ピッチ。小池征人監督がどんな作品を見せてくれる

か、私も胸をわくわくさせて待ちこがれています」

八森町の奈良聡子さん(38)＝写真＝は、町民有志が立ち上げた「記録映

画製作を支援する会」の事務局長。

01年6月から町内で撮影が続けられてきた「白神が舞台だが白神賛歌ではない」(小池監督)ドキュメンタリー映画の助っ人役を仲間たちとともに務めてきた。

映画はもともと、同町の観光総合計画「百年構想」に携わった関係者から生まれた企画だ。しかし、事情を知らない町の

人たちは、当初、町に乗り込んできた撮影チームにびっくりするばかり。

「これではいけない」支援する会は、会報「白神シネマスコープ」

で撮影の進行状況を知らせるなど映画の広報役を務めて撮影チームと町の人たちを仲立ち。これまでに13号を発行する一方、ホームページでもその内容を紹介するなど意欲的な活動をして、町内外に

支援の輪を広げてきた。

「映画は世の中を良くする大きな力を持つ手段のひとつ。見た人にいろんな事を考えさせてくれる」が持論だ。「きつと素晴らしい作品が出来上がると確信しています。だって、そうじゃないと困るもの……」。

次の課題は、上映運動の展開。映画完成を楽しみにアイデアを練っている。